



面接試験の流れ

面接では、態度やしぐさ、言葉遣いなど、すべてが重要なポイントです。

1 受付から入室・退室まで

① 15分前には会場へ到着して、トイレで身だしなみのチェックをしておきます。

② 受付で挨拶をした後、大学名と氏名を告げて、用件（何時の約束で面接に来たのか）をハキハキとした口調で伝えます。

③ 受付からの指示どおりに控室へ向かい、静かに待ちます。また、途中で社員に会ったら、会釈をしましょう。

④ 名前を呼ばれたら面接の部屋へ向かいます。ドアを3度軽くノックし、「失礼致します」と言ってからドアを開けます。ドアを静かに閉めて、面接官のほうを向いておじぎをします。「こちらにどうぞ」と言われたら、「ハイ」と言って席まで進み、左右いずれか自然な位置に立って一礼します。

⑤ 椅子の横で、大学名、学部・学科名、氏名を名乗り「よろしくお願ひします」と挨拶をします。着席を勧められたら、「失礼致します」と言って座るようにしましょう。バッグは椅子の横に置きましょう。

⑥ 椅子に浅く腰かけ、背筋をまっすぐに伸ばします。足を組んだりひじ掛けにひじを置いてはいけません。

⑦ 質問に対しては、質問者のほうを向き、相手の目を見て話します。視線を外したり、うつむいたりすると、自信がないように見られるので注意しましょう。

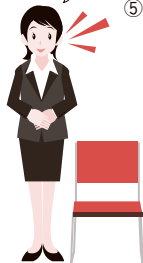
⑧ 面接が終わったら、おじぎをして「ありがとうございました」と言います（笑顔を忘れずに）。そして、静かに席を立って、退出する際、ドアの前で面接官に向かって「失礼致します」と挨拶をしてから外へ出しましょう。



失礼致します



よろしくお願ひします



※こぶし三分のすき間を空けます。

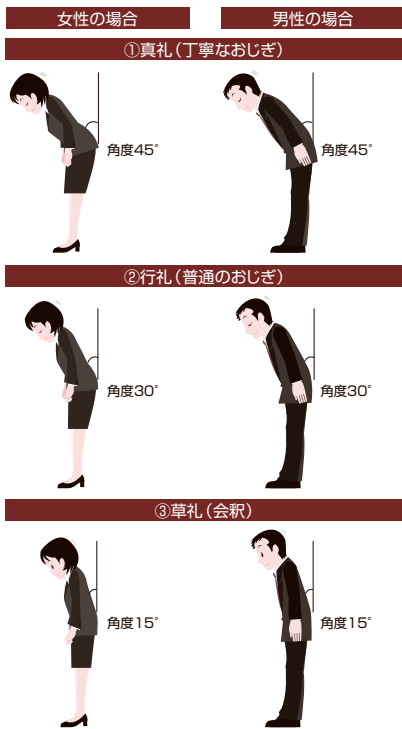
※女性は両手を重ねたものの上に置く。
男性は軽くこぶしを握りひざの上に置く。

Watch!

- 面接では、あなたという人物があらゆる点から評価される。気持ちを引き締めて臨もう。
- 面接で付け焼き刃は通用しない。日ごろから礼儀正しい態度、美しい動作、きれいな話し方をするように心掛けよう。

2 姿勢・マナー・言葉遣いなど

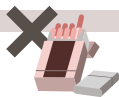
姿勢	背筋をピンと伸ばして、堂々としていましょう。猫背だったり、うつむいてモジモジしていると、自信がないように見えてやる気を感じられません。積極性や前向きな考え方を、美しい姿勢で表しましょう。
おじぎ	おじぎには3種類あります。首だけを下げののではなく、背筋を伸ばして腰を曲げるのがポイントです。 ①真礼(丁寧なおじぎ) ・お礼を言うとき ・お詫びをするとき ②行礼(普通のおじぎ) ・面接室に入室するとき ・面接室から退室するとき ③草礼(会釈) ・受付で挨拶するとき ・社内ですれちがったとき
マナー	誰にでも癖はありますが、貧乏ゆすりをしたり、何度も髪を触ったりするのは見苦しいものです。着席のときは、足を組んだりひじ掛けにひじを置いてはいけません。また、失敗しても笑ってごまかしたりしないで、素直に謝りましょう。
言葉遣い	言葉遣いには、十分注意を払ってください。社会人になれば、すぐに要求されるものです。尊敬語(「お~なさる」)、謙譲語(「~させていたたく」)、丁寧語(「~します」)の使い方に、普段から慣れておきましょう。



Check Point

Check Point 1 ▶ 控室から面接は始まっている

控室は、面接に備えるための場所です。友人や知人がいても、おしゃべりは慎みましょう。また、他社の資料を読む、化粧直しをする、タバコを吸うのも厳禁です。印象が悪くなります。名前を呼ばれるまで静かに待つようにしましょう。



Check Point 2 ▶ 学生気分は厳禁

普段学生同士で使っている「学生言葉」は、面接では特に避けるべきです。社会人としてそのような言葉は不適切です。今のうちから、TPOに合わせた言葉遣いで話せるようにしておきましょう。

